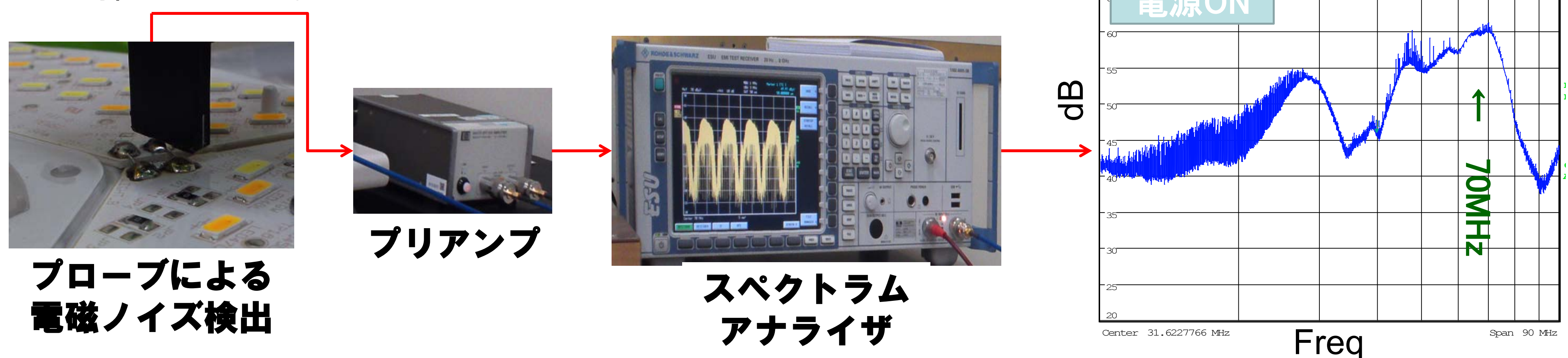


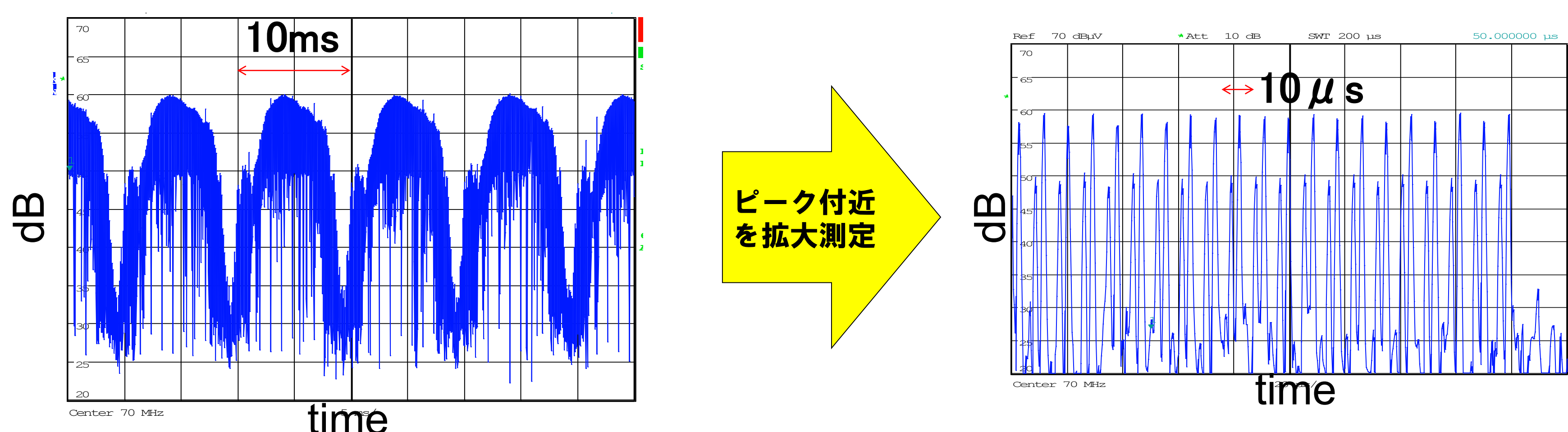
# スイッチングノイズを 対象としたEMC評価手法

## スペアナによるノイズ源の推定方法検討

ノイズレベルの発生パターンの時間変化を計測することによってノイズの発生源を推測する。



一般的なノイズ検出方法(周波数特性)では「70MHzが高い」ことはわかるが、原因箇所は特定できない。そこで、70MHzのノイズの時間変化をゼロスパンモードで計測。



ゼロスパン測定により、10µs間隔のパルスノイズが発生していることが判明。周波数にすると100kHz。スイッチング周波数由来のノイズと推測できる。  
→回路改善のデータとなり得る。

## 電波暗室でのノイズ原因の推定方法検討

前述の検討方法を電波暗室での測定に応用。  
高ノイズレベルの50MHzでゼロスパン測定すると10µs間隔のパルスノイズを検出→電波暗室内でのEMC試験直後にノイズ源推定が可能

